

Green x Digital コンソーシアム

環境関連分野のデジタル化や新たなビジネスモデルの創出等に係る取り組みを通じて、我が国の産業・社会の全体最適を図ることで、2050年カーボンニュートラルの実現に寄与することを目的とする



事業内容

1. 企業の環境活動の高度化（リアルタイムデータ収集、ホットスポット分析、再エネ訴求等）に資するデジタルソリューションの創出・普及促進
2. 環境活動に係るデータ連携や信頼性確保等に関する検討・提言

2023年度活動計画

▶ サプライチェーンCO2排出量の可視化のための仕組み構築

- ・ サプライチェーン内で共有するCO2データの算定方法や、データ連携の技術仕様等の検討
- ・ CO2可視化ソリューション間のデータ連携に係る（仮想サプライチェーン上での）技術実証
- ・ データの信頼性保証・検証に係る制度面の課題及び解決策の検討

見える化WG

▶ 個別の事業領域の脱炭素化に向けた検討

- ・ 地方データセンターの継続的な事業化に向けた課題抽出とモデルケース（実現例）の立案
- ・ データセンター以外の事業領域における新規WG・SWGの立ち上げに向けた検討

データセンター
脱炭素化WG

▶ 環境活動実績のデジタル計測・評価・管理に係る検討

- ・ 企業による環境活動の実績データを計測・評価・管理するITシステムにおける共通課題の抽出
- ・ データ計測・評価・管理ガイドラインの検討

環境活動データ価値化
[WG設置準備中]

▶ 制度・政策の国際調和に向けた国内外の関係機関との対話・情報発信

- ・ 産総研やIPA DADC、WBCSD PACT等の関係機関との意見交換
- ・ サプライチェーンCO2排出量の可視化を、DFFTのコンセプトに基づくデータ流通の事例の一つとして情報発信

組織名称	Green x Digitalコンソーシアム [読み：グリーン カケル デジタル コンソーシアム]
代表者	座長：越塚 登 [東京大学大学院情報学環 教授]
設立年月日	2021年10月19日
会員数	正会員：159社 賛助会員：6社 / 団体 [2023年 10月1日現在]
事務局	一般社団法人電子情報技術産業協会 [JEITA] グリーンイノベーション部

詳細・入会のご相談はこちら



見える化WG

目指す姿

見える化WGでは、グローバルでのサプライチェーン全体の脱炭素化を求める取引慣行や、欧州を中心とした新たなルールメイキングに対し、デジタル技術を活用し、サプライチェーン全体のCO2データを見える化する仕組み構築を目指しています。



企業間データ交換のために、多様なソリューションが“つながる”仕組み作り

(共通的な算定・共有方法のガイドライン/データ交換の技術仕様等)



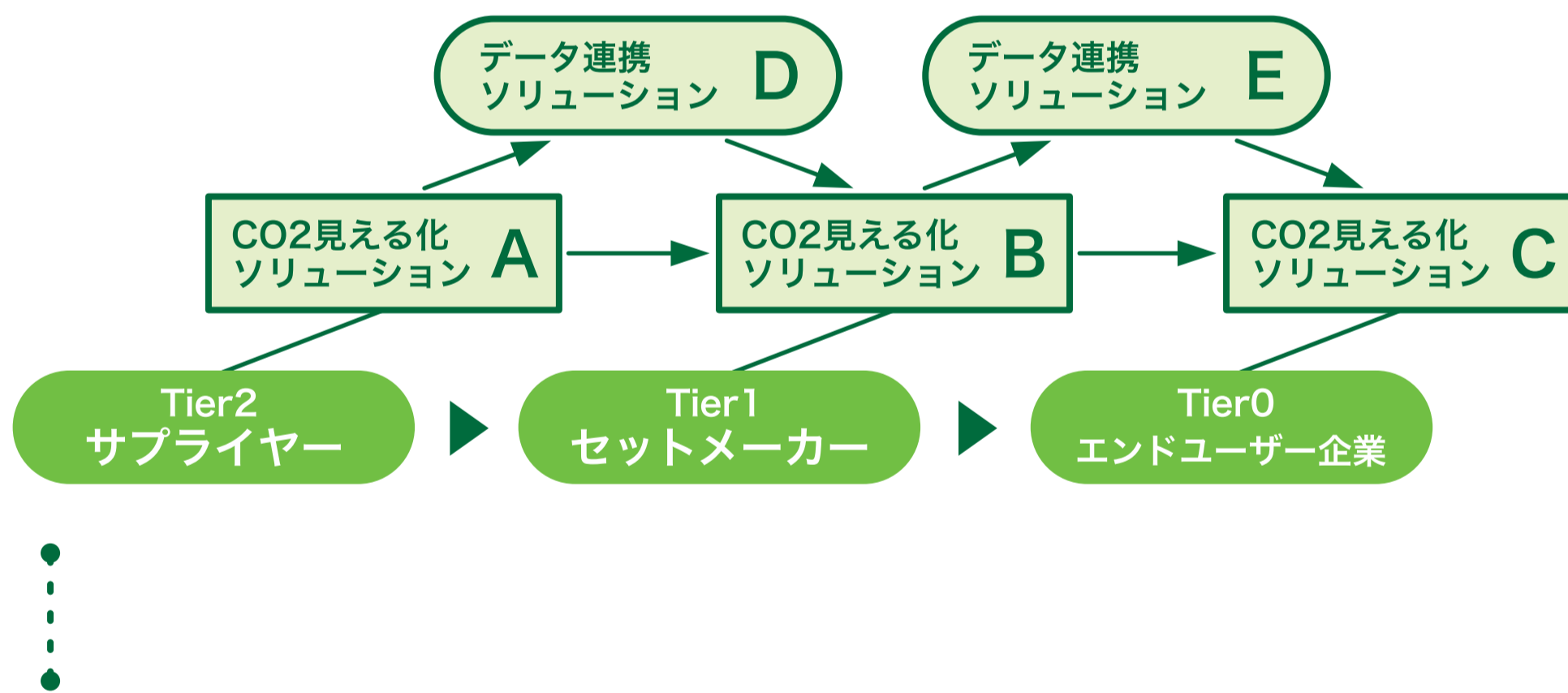
Scope3排出量の見える化

データ交換

グローバルデータ連携

企業間CO2データ交換の実証実験

- ・「CO2可視化フレームワーク」「データ連携のための技術仕様」に基づくCO2データ算定・サプライチェーン上でのデータ連携の実現性を検証
- ・32社による仮想サプライチェーン上でCO2データの算定及び連携に成功、CO2データの見える化実現に向けて大きく前進



グローバルの先行ルールとも整合

- ・業界横断的にGHG排出量の一次データの交換を可能にするためにWBCSDが立ち上げたイニシアチブ：PACTと連携
- ・コンソーシアムとして「Pathfinder ecosystem」に加盟、意見交換を通じてアウトプット文書をアップデート

CO2可視化フレームワーク

- ・デジタル技術を活用した、サプライチェーン全体でのデータ交換の対象となる「CO2データ」について、算定方法及び共有方法を提示
- ・サプライヤー企業の削減努力を、一次データ活用を介して反映し、経時的なCO2削減評価（縦比較）を可能とするデータ水準を目指す

データ連携のための技術仕様

- ・CO2データをデジタル技術を活用して交換する際の、「共通データフォーマット」の考え方と詳細仕様及び「データ連携プラットフォーム」の考え方を提示
- ・「共通データフォーマット」の採用により、企業毎に異なるデータフォーマットによる個別のデータ連携に比べ、サプライヤーの負担を大幅に軽減可能

